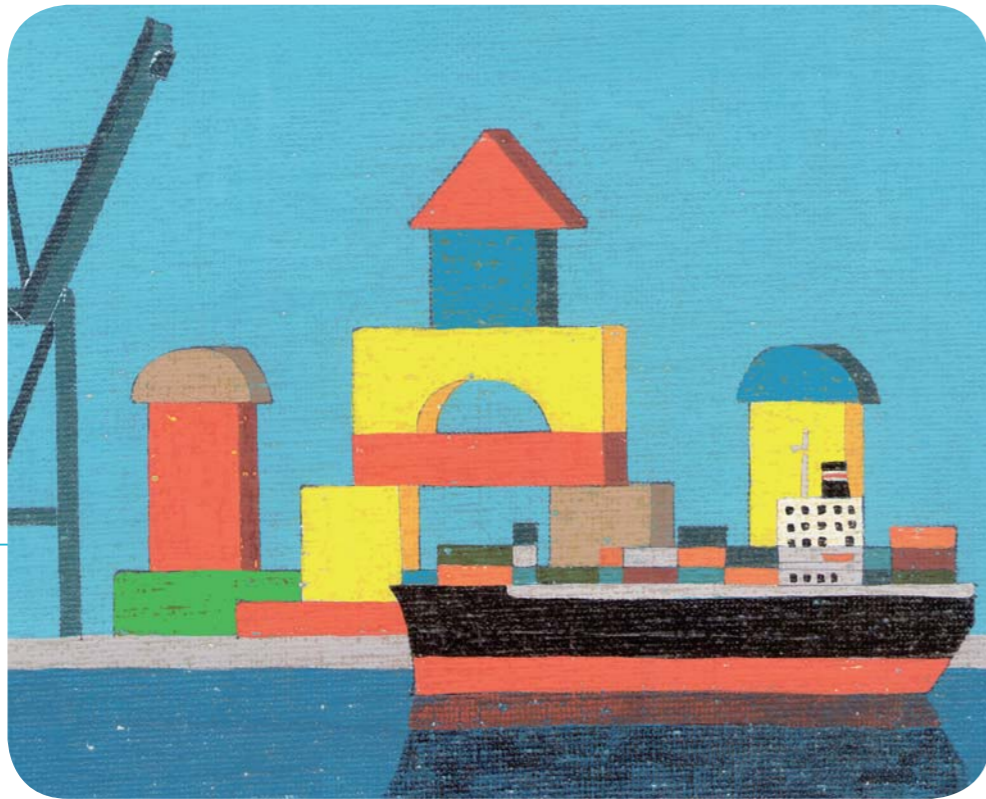


illustration by Takao Nakagawa



column | RAMPWAY 6

## 首都高名所案内 新旧大井風景

コラムニスト  
泉 麻人

大井インターを降りた八潮の湾岸地帯にはコンテナを積みあげた倉庫街が広がっている。無機質な景色とはいえ、色とりどりの四角いコンテナがきちんと山積みされた様子は、なんだか巨大なブロック玩具の世界に紛れこんだようで面白い。このあたりの広々とした道路には、コンテナを外してガイコツみたいな格好になったトラックが走

行し、所々にこんな地名表示板が掲げられている。

4号バス、5号バス、6号バス  
…船の停泊所を意味する（berth）のことだが、ふと阪神のバス選手がホームランをかつとばしていた頃のスポーツ新聞の見出しを彷彿する。

倉庫街の先には広大な大田市場があり、築地ほどではないけれど、安くて

旨い魚が味わえる店もある。そして周辺を散策してみると、意外と緑が多い。水辺が豊富なせいか、都心では珍しくなったギンヤンマの姿を見掛けることもよくある。

と、大井の湾岸地域の話はこのくらいにして、内陸の方に移ろう。

モノレールが走る京浜運河の向こう岸には、ドライバーには馴染み深い、鮫洲の町がある。僕が車の免許を取った頃は、京急の駅前からずらりと代書屋が並んでいて、「写真撮った？ 更新？ 早いよ、安いよ」と、呼びこみの声が凄まじかった。これが神社の門前町のような独特の風情を醸し出していたのだが、最近は数がめっきり減ってしまったのがちょっと寂しい。

そもそも鮫洲の地名は、むかし品川沖で大ザメに襲われて、持っていた観音像を投げこんで助かった若者の伝説に由来するという。京浜国道の向こうの海晏寺に、そのサメの腹中から出てきた観音像が祀られていると聞くが、京浜国道や旧東海道ぞいには、こういった海の伝説や波除けにまつわる寺や神社が並んでいる。

「東海七福神」というのが設定されていて、以前僕は品川から鈴ヶ森あたりまで、七福神が置かれた旧東海道を

の寺社を巡り歩いたことがある。とりわけ印象に残っているのは、青物横丁近くの品川寺。これはシナガワデラではなく、ホンセンジの音読みが正解。七福神は毘沙門天が置かれているが、それよりも江戸六地藏の一つに数えられる大きな銅造地藏が目にとまる。それともう一つ、この梵鐘は幕末の騒乱期に紛失、その後スイスのジュネーブで発見された——という不可思議な経緯をもっている。

寺巡りもいけれど、この辺にはポンプ式の井戸が置かれた路地裏が残っていて、往年の漁師町の面影が偲ばれる。専業の漁師は廃れたものの、舟宿流れの小料理屋がぼつぼつとあって、地場物の天井などが味わえる。アナゴ、キス、メゴチ……濃い口のシヨウウで味つけた、いかにも漁師風の天井。なんてことを書いていたら、また鮫洲のあたりを訪ねてみたくなってきた。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。「週刊TVガイド」などの編集者を経て、84年、フリーのコラムニスト。近著に『東京考現学図鑑』（編著 学研パブリッシング）がある。

## 2 コラム RAMPWAY 泉 麻人

### 特集 サービス

- 5 サービス拡大への取り組み  
都市ジャーナリスト  
森野美徳
- 10 道路インフラのサービス品質  
交通評論家  
芥川麻実子
- 12 コラム バイ・ザ・ウェイ 太田治子
- 14 CHALLENGE  
マーケティング戦略の展開
- 15 データ物語  
データが語る首都高混雑のリズム
- 16 首都高HEADLINE
- 18 business essay  
虫から見た道路  
早稲田大学 国際学術院 教授  
池田清彦
- 20 つくる人まもる人  
首都高ホールサービス東東京株式会社  
渡辺優志
- 22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito  
contents produced by  
Metropolitan Expressway Company Limited